

薫風に健康をのせて

— 県栄養指導車の活躍 —

おいしい栄養料理を食べて、いつも健康で力いっぱい働いていたかどうか、きょうも県のキッチンカー（栄養指導車）は村から町へと走っている。現在のところ「けんこう号」「ひまわり号」「ひばり号」の三台が配置され、保健所の栄養士さんに乗せて栄養料理の実演に、栄養相談にと大奮闘中である。それも臨機応変に、例えば、農繁期は都市部へ、農閑期には農村部へとといった具合に。

ところでこのキッチンカー明るいグリーンのスマートなスタイル。内部は冷暖房装置、冷蔵庫はもちろんのこと、調理器具、瞬間湯わかし器、ガスレンジ水タンク整理棚などすべてが近代的に設備された申し分のない、動くモデル台所だ。車では、栄養士さんが、テキパキと、短い時間に食品の正しい栄養知識と、栄養成分を配慮した料理や、貧血症や成人病予防のための食事のつくり方をわかりやすく、楽しく実演していく。



いよいよ実演開始。みんなふだん着のままでもよい青空栄養教室だ。



- 上・この日の会場は漁村……お宮の境内の前で熱心にメモをとる主婦たち
- 右・話を聞いて、試食してみても……さすが専門家の料理はおいしいネ。今晚のおかずはきまった!
- 下・成人病の予防食事や、みかんが沢山とれたのでマーマレードの作り方も習いました。



集まったお母さんたちも熱心にメモしながらも、目は栄養士さんの手もとに集中。見る見るうちに料理が出来上っていく。キッチンカーはどこへ行っても人気のだ。アンケートでは「非常に為になる。毎日出かけてきて欲しい」といった回答が圧倒的だし、雨の日でも、風の日でも、二百人平均の集まりがあるほどだ。

(写真は「ひばり号」による天草郡河浦町の巡回指導スナップから)



くまもと・カメラスケッチ 水俣港

くまもとの主要四港の一つである水俣港は県の南端にあり、古くから海運業の要として活躍してきた。港の背後地には日窒水俣などの化学工業や、原木の集積地があり、輸出入貨物の取り扱い量も多く、近年、石灰石、コークス、化学薬品、外材などの輸出入が活発になっている。一方、天草を結ぶ観光客の利用もブームの波に乗ってふえつつある。



▲県の水俣港管理事務所は港の業務を扱っている。



▲水俣港は牛深港や本渡港を結ぶ海の観光基地。

▲3000トン級岸壁や1万トン級の繋船浮標があり、水俣港はさらに拡充されつつある。



▲外国の貨物船が接岸すると大型のクレーンが動き出す。荷揚場はいつも活気にみちている。

▲水俣市は工業の街。水俣港はその玄関口でもある。